

Dynamic Pass for the Win

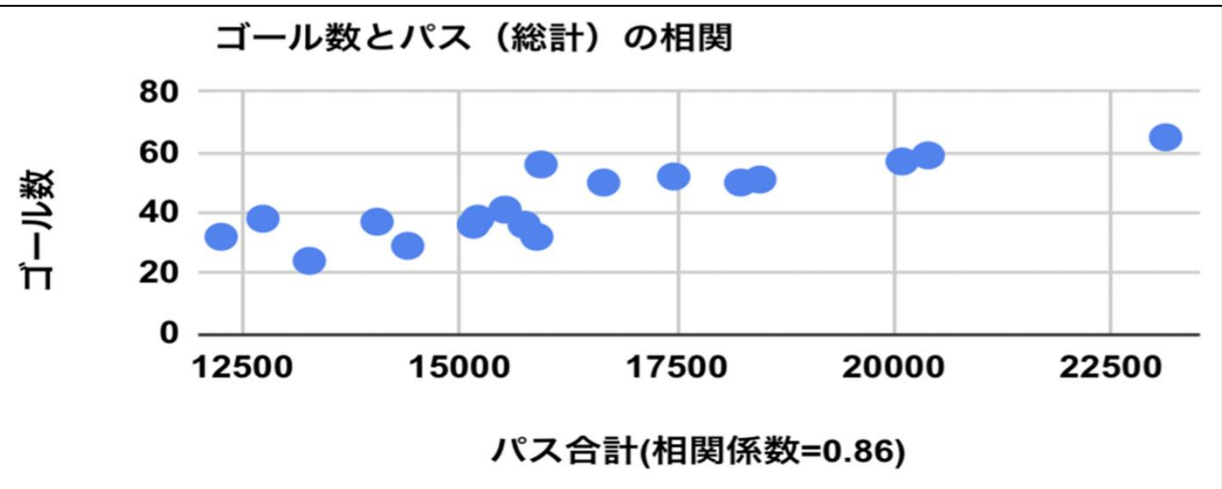
【鹿島アントラーズと湘南ベルマーレを比較分析し、湘南ベルマーレにチームとしてのパスのあり方の提案を行う】

図 1



[2013-2016年の順位表]				
	2013年	2014年	2015年	2016年
鹿島アントラーズ	5 位	3 位	2 位	11 位
湘南ベルマーレ	16 位	(J2)	9 位	17 位

図 2



【現状】

鹿島アントラーズ 〓 J1 を維持し続け安定。

湘南ベルマーレ 〓 J1 とJ2 を行き来していて不安定。

【動機】

- ・スポーツ統計を紹介してくれた数学の先生の好きな湘南ベルマーレが弱いのはなぜか。
- ・鹿島アントラーズ (J1 定着) と湘南ベルマーレ (J1 未定着) の差は何か。
- ・湘南ベルマーレが安定的な成績を残す (=強さを発揮する) にはどうしたらよいのか。

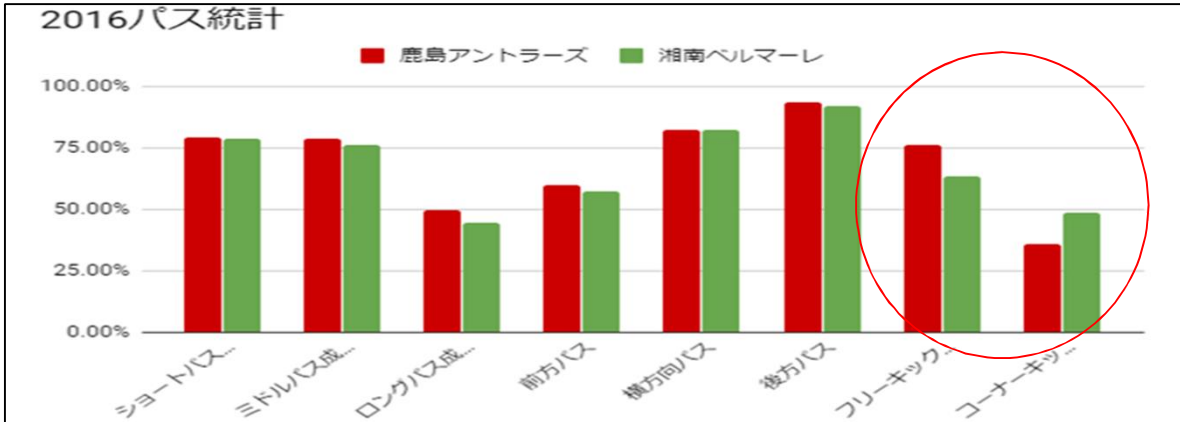
【仮説 1】

図 2 よりパスが勝利に影響を及ぼすことが分かる。弱い湘南と常勝鹿島にはパスの成功率に違いがあるのではないか。

【分析 1】

鹿島と湘南の各種パスの成功率の比較する。

図 3



【考察 1】

- ・図 3 から意外に両チームのパスの成功率に差はない。
- ・顕著に差があるのはパスとしての F K と C K である。
- ・この 2 つにチームとしての安定性の違いがあるのではないか。

【仮説 2】

図 3 より F K と C K に両チームの違いがあることから、この 2 種類のパスにチームの違いがあるのではないか。

【分析 2】

4 年間分の 2 種類のパスを比較して分析する。

図 4

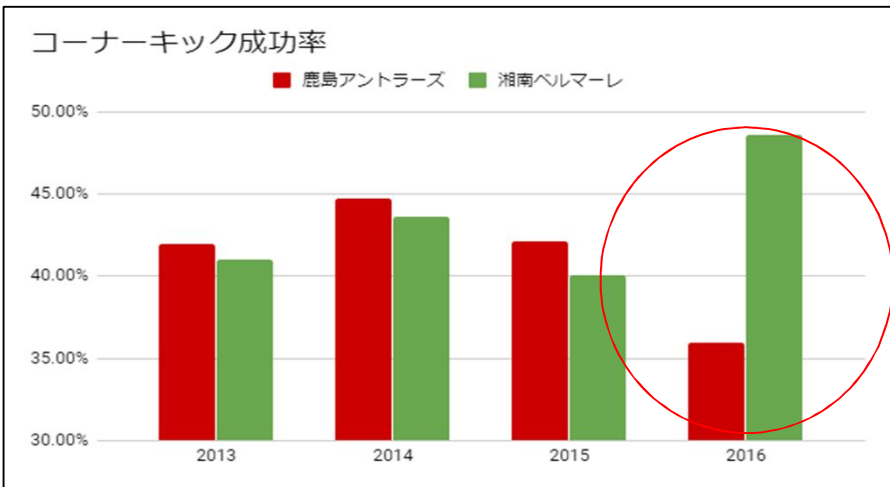
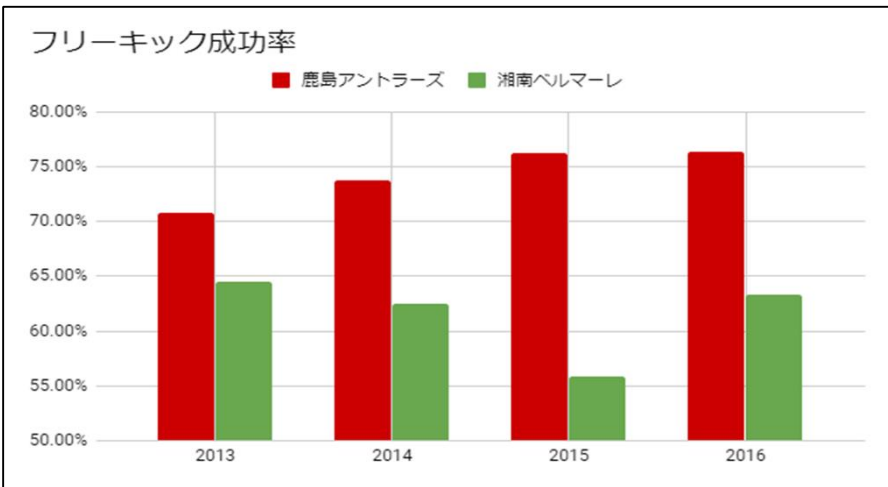


図 5



【考察 2】

- ・図 4 から、CK について大きな違いがあるのは 2016 年のみであることがわかるので例外とし、図 5 に注目する。
- ・図 5 から C K よりも F K の方にこそ両チームの違いが明確に出る。
- ・図 5 の湘南のみの推移に注目すると、1 番成績の良かった 2015 年、J 2 上位だった 2014 年は F K パスの成功率が低く、逆に年間成績が悪い年はパスとしての F K 成功率が高いことがわかる。それはリスクを恐れて勝負してないからではないか。

【仮説 3】

フリーキックパスにリスクをかけた方が湘南ベルマーレにとって良い結果につながる。

図 6

2015	合計	成功率
秋元 陽太(GK)	128	32.80%
永木 亮太(MF)	76	57.90%
三笥 雄斗(DF)	68	47.10%
遠藤 航(DF)	41	58.50%
アンドレ バイア(DF)	27	70.40%

図 7

2016	合計	成功率
村山 智彦(GK)	138	37.70%
三笥 雄斗(DF)	64	57.80%
下田 北斗(MF)	39	48.70%
石川 俊輝(MF)	31	96.80%
アンドレ バイア(DF)	28	92.90%

【分析 3】

湘南ベルマーレでフリーキックパス総計のトップ5の選手を 2015 年 (成績が良い) と 2016 年 (成績が悪い) を比較し分析する。

【考察 3】

- ・図 6・7 を比較すると、成功率は 3 位までは人が変わっているにも関わらず、それほど変わらない。
- ・大きく異なるのは 4 位と 5 位であり、特に両年に在籍しているアンドレバイア(DF)の成功率が上下が示唆的である。D F が F K を蹴る際、リスク(成功率の低下)を恐れ続けない姿勢がチームの成績につながるのではないか。

【仮説 4】

湘南ベルマーレの DF はプレー中チーム内で最も試合の流れを左右させるポジションである。

【分析 4】

湘南ベルマーレのプレーをポジションごとにアタッキングサード/ミドルサード/ディフェンシブサード/プレー合計の 4 つの種類を用い、また 2015 年と 2016 年の比較を通して分析する。

図 8

2015	プレー数	アタッキングサード	ミドルサード	ディフェンシブサード
FW	3135	1378	1302	346
MF	9375	2368	4625	1654
DF	5656	674	2414	2157
合計	18166	4420	8341	4157

図 9

2016	プレー数	アタッキングサード	ミドルサード	ディフェンシブサード
FW	3804	1613	1612	446
MF	9685	2248	4950	1714
DF	5360	554	2430	2091
合計	18849	4415	8992	4251

【考察 3】

- ・図 8 を図 9 と比べると、DF のプレー数が多く、MF と FW のプレー数が少ない。
- ・DF がアタッキングサードでのプレー数を増やし、つまりラインを高く保ち、FW がアタッキングサードでのプレー数を減らし、チームとしてのミドルサードでのプレイ数は減らず、つまりシンプルにプレイすることが年間を通した成績につながっていくのではないか。

【結論】

- ・パスの総数とゴール数には相関がある。
- ・湘南と鹿島にパスの成功率の差は多くの場面でない。
- ・大きく異なるのは F K パスの成功率だが、湘南の場合、この率を下げるのが年間成績の良化につながる。
- ・FW と MF のプレー数が少ない方が年間成績が良い。

【提案】湘南DF陣よ、熱い気持ちを忘れるな！

- ・熱い気持ちとは、DF のリスクを恐れない姿勢である。
- ・DF は、リスクを恐れず、FK に際して前線を信じ、パスを送るべし。
- ・DF は、リスクを恐れず、オーバーラップし、アタッキングサードでプレーすべし。
- ・MF / FW は、DF の姿勢を信じ、シンプルにプレーすべし。
- ・補強するならば、2015 年の遠藤のようなリスクを恐れず FK パスできる (させてもらえる) DF の選手である。